大阪府SDGs推進本部（第1回）議事概要

日時： 平成30年４月２日（月）11：20～11:35

ところ：大阪府庁本館　特別会議室（大）

【議事概要】

（山口政策企画部長）

・ＳＤＧｓは、国連総会で決定された持続可能な社会をめざす１７の分野の国際的な目標。非常に多様で幅広い目標で、これを達成するには、各地域において広範なステークホルダーが連携しながら取り組みを進めることが重要。

・とりわけ、ＳＤＧｓの理念は２０２５万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」とも共通する部分が多い。

・２０２５年万博の誘致をめざす大阪府として、ＳＤＧｓ達成に向けた取り組みをしっかり先導するため、今回推進本部を立ち上げたところ。知事を本部長とする本部の下、全庁上げた取り組みを推進するため、お願いしたい。

・具体的な内容については、企画室から説明。

（本屋企画室長）

・全庁一丸となってＳＤＧｓの推進を図りＳＤＧｓ先進都市をめざしていく。

・その背景として、①ＳＤＧｓと誘致をめざす２０２５万博のテーマ「いのち輝く未来社会」の理念が合致していること、②国においても実施指針の策定など一定の方向性を取りまとめていること、③民間企業等においてもＳＤＧｓと関連付けた取り組みが広がってきていること、の３点。

・目的意義として、府がＳＤＧｓ達成に向けた取り組みを全庁一丸で取り組むことで、府民・市町村・民間企業など様々なステークホルダーの取り組みを促すことに繋げること。取り組みを促進することで、ＳＤＧｓ先進都市としての大阪の都市格を向上すること。万博と連動して、経済・社会・環境面での幅広い取り組みを発信し、世界の課題解決への貢献をめざすといった意義が考えられる。

・今後の取り組み方向として、三段階の取り組みがあると考える。まずは、ＳＤＧｓの理念の理解促進。２つ目として、ＳＤＧｓ推進に向けた具体的取り組み・方向性の検討。先進事例の収集・ステークホルダーとの連携を模索するなどして、各部局関連の個別分野について、主体的に何が出来るかを検討していただきたい。そして、３つ目として各部局の取り組みを通じたＳＤＧｓの推進。出来ることから既存事業や各種行政計画などにＳＤＧｓの観点を反映。更に、新たな取り組みの実施や、民間企業とのタイアップ等、各部局の取り組みを通じたＳＤＧｓの推進に繋げていきたい。

・今後、企画室としても府民向けのＳＤＧｓ展示会の開催や、庁内勉強会の実施などに尽力。ＳＤＧｓの取り組みが進むように各部局の協力をお願いしたい。

（中野総務部長）

・ＳＤＧｓについての情報共有・理念の普及に関し、市町村向けの勉強会の開催等とあるが、市町村課で（市町村の）ブロック会議などをやっているので、企画室と調整しながら、適切な時期に開催できればと思います。

（新井副知事）

・各部がどう関わって、何をするのか。ＳＤＧｓの理念・課題等は、おおまかに受け止めているだろう。

・「いのち輝く未来社会」をめざすビジョンの策定時も、各部が主体的にどのように取り組むかについて色々議論があった。ビジョンの中でも、ＳＤＧｓにどう貢献するか整理している。

・「いのち輝く未来社会」をめざすビジョンとの関係の整理も含めて、政策企画部の方から提示するのか、各部が主体的にこの理念の実現をめざすのか。

（山口政策企画部長）

・ＳＤＧｓは本当に広範な分野に渡っており、どういうかたちで進めるかというのは、今後各部局と相談しながら進めたい。

・大阪府として、計画をまとめて実施するというよりは、基本的には、各部局の既存の施策であるとか、これから行う施策等を進める中で、大阪がＳＤＧｓの先進都市を目指していきたいということ。

・基本は各部局でいろんな取組を進めていただき、政策企画部としては、お手伝いをしたいとそういうスタンスで進めていきたい。

・そうは言っても、いきなりやれと言われてもなかなか難しいかと思うので、当面、夏ぐらいまでは、ＳＤＧｓの内容や、他都市の色々な取り組みを、情報収集したうえで、各部局と勉強会等を通じて一緒に考えるといった機会を設けていきたい。

・そうした中で、各部局で、どういう分野で取り組みをすれば効果が上がるのか、良いものが出来るのかということを主体的に考えていただく。このような手順で進めていきたいと考えているので協力をお願いしたい。

（新井副知事）

・ＳＤＧs達成のための共通の目標を定めるのではなく、各部局がＳＤＧｓを意識して施策を推進する中で、どのようにアウトプットを設定するか検討していくということか。

（山口政策企画部長）

・我々で計画を作るというのではなくて、各部局の、例えば、環境、福祉の分野等、ＳＤＧｓと共通する部分については、ＳＤＧｓの視点をしっかり入れ込んだうえで、事業を進めていただくということを目標にしていきたい。

（藤井健康医療部長）

・ＳＤＧｓには、国連が１７の目標について、１６９のターゲットを設定していて、健康医療の分野では、例えば、医療にアクセスできる人を１００％にしようとか、そういうターゲットが非常に分かりやすいが、そういうものを何か大阪府で作るということなのか。

（山口政策企画部長）

・基本的には、何か独自の目標を作るということではない。国連や、国が示しているターゲットが、かなり詳細にわたっているので、まずは各部局でやっている施策であるとか、事業の中に（ＳＤＧsの観点を）落とし込めるかどうか、それをしっかり考えてもらうということがスタート。

（西田商工労働部長）

・商工労働委員会でＳＤＧｓの１７の項目に関連したものをしっかりビジネス化していってほしいというご提案を受け、知事からもしっかり取り組んでいきますというようなかたちで答弁いただいた。

・商工労働部としても、社会課題解決型のビジネス支援をやっていて、１から１７の目標の項目に関係するものが多い。そういったものは、中小企業にとってもビジネスチャンスであるので、ＳＤＧｓビジネスへの関心を高めるための機会を積極的に設けていこうと思っている。

（大阪府知事）

・ＳＤＧｓって何なのというのが、府民の皆さんにもあまり理解されていないところがあると思う。先ほども話が出たが、我々が万博のテーマに掲げている「いのち輝く未来社会のデザイン」というのと、理念が被っていると。府庁の政策としては「いのち輝く未来社会のデザイン」に向けた取り組みはやっている。その取り組みの中で、これはＳＤＧｓですよ、というかたちで、まとめていけばと思っている。

・例えば、健康医療部が取り組んでいる、超高齢化社会に健康寿命を延ばすというのは、まさにＳＤＧｓ。国際医療貢献も。環境に対しての、日本の技術力。環境を守るための様々な技術力を作っている中小企業もＳＤＧｓの商品を開発している。

・そういう捉え方をすると、今既にやっていることを、「これＳＤＧｓですよ。」という風にきちんと説明していく。それを府民のみなさんに理解して、自分たちも参加してもらう。これが、推進本部の役割だと思っている。ＳＤＧｓをあまり難しく考え過ぎるとこんがらがってくると思う。

・各部局で今やっていることが、「いのち輝く未来社会」のデザインに繋がれば、それはＳＤＧｓ。世の中の人、府民のみなさんもそういう感覚で説明したほうが分かりやすいと思うので、ぜひ、各部局、色々工夫しながら、ＳＤＧｓは、「こういうもの」というものを分かりやすく、府民のみなさんに伝える、理解されるように推進本部で色々作り上げてもらいたいと思う。よろしくお願いしたい。

【以上】